

平成 28 年「新年のご挨拶」

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、気仙沼市において、「第 60 回全国高等学校日本拳法選手権大会」が開催されました。全国規模の大会は、日本拳法が東北に根差して約 40 年の歴史でも、宮城県が主会場になったのは、初めての出来事でありました。

我が道場「日本拳法大崎倶楽部」の本年最大の栄誉は、創部 7 年目にして初めて、大阪府で開催された全国区の大会「第 40 回全国日本拳法総合選手権大会」に、「宮城県日本拳法連盟」の小学生低学年の代表として出場した「佐々木駿斗拳士」の、称賛に価する素晴らしい大活躍でした。

「宮城県日本拳法連盟」主催の「(K-SPIRIT7) 日本拳法みちのく総合選手権大会」を、今年は初めて、県外（岩手県一関市）で実施致しました。今回、岩手県での開催は、「日本拳法大釜道場」や「岩手医科大学日本拳法部」があり、岩手県を含めて、もっと東北に「日本拳法」を、普及させることを目的に開催されました。

「日本拳法大崎倶楽部」の一関大会での成績は、優勝者が「佐々木駿斗拳士」準優勝者が「薩日内千夏拳士・三上唯拳士」第三位が「薩日内よし乃拳士」でした。又、敢闘賞に「佐々木護助拳士・佐々木快斗拳士・平地俊介拳士」が入賞しました。

「日本拳法東北連盟」主催の「日本拳法東北大会」においては、「佐々木駿斗拳士」が優勝し、「佐々木和造拳士」が準優勝で「佐々木護助拳士」が第三位と、三賞を独占した大会でありました。特に「和造・護助」兄弟は、日本拳法を習練してから日も浅いながら、素晴らしい結果が出せたことを喜ばしく思います。

新年度も、大会や諸行事が目白押しにありますが、拳士及びご家族皆様のご協力を戴きながら、「宮城県日本拳法連盟」「日本拳法大崎倶楽部・古川日本拳法スポーツ少年団」の事業活動を邁進させてまいります。

本年の道場訓は、「不言実行」を指針と致しますので、道場生は、「あれこれと理屈を言わないで、実際に行動する。」この意味であるこの指針を抱いて、稽古に励んで下さい。

今年の干支は、「申（さる）」です。又、「申（サル）」が「去る」という意味を表し、「悪いことが去る」や「病が去る」など良いことや幸せがやって来るとする年とする一説があります。日本の各地では、「申年に赤い下着を贈ると病が治る」「申年に贈られた下着を身に着けると元気になる」などと、昔からの言い伝えがあります。

皆様も申年で良いことがあるように、幸運を引き寄せる為に、「赤い下着」を両親や兄弟姉妹・大切な人に贈ることで、部員やご父兄の皆様に、多くの幸せが来ることを心から祈念申し上げ、新年の挨拶と致します。

平成 28 年 1 月吉日

日本拳法大崎倶楽部
代表 高橋宏幸